

2010年 熊本県のがん登録

【概要】

集計結果(平成25年9月)

詳細な報告書については、熊本県ホームページをご覧ください。

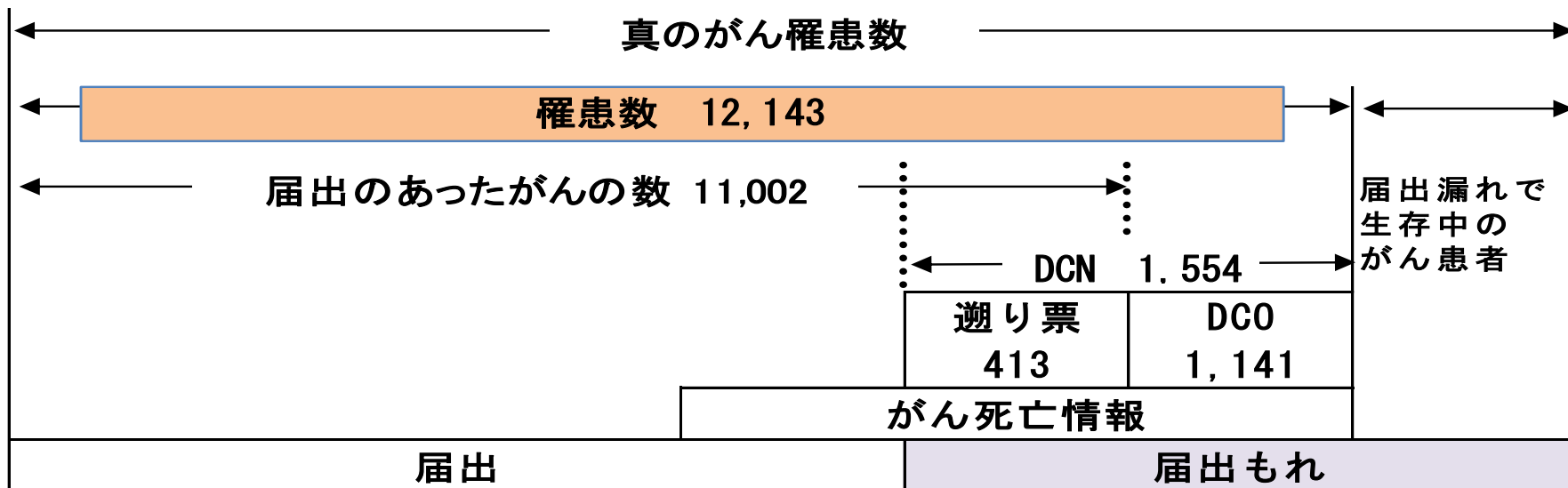
<http://www.pref.kumamoto.jp/soshiki/31/>

健康づくり推進課＞疾病対策＞熊本県地域がん登録事業について

主な用語の説明

- ・**罹患** ある集団で一定期間に新たに診断されたがんの数(再発を含まない)のことである。
- ・**罹患率**:ある集団で新たに診断されたがんの数を、その集団のその期間の人口で割った値。通常1年単位で算出され、「人口10万人のうち何例罹患したか」で表現される。
- ・**年齢階級別罹患率と粗罹患率**:年齢階級別の罹患数を対応する年齢階級の人口で除すと、年齢階級別罹患率となる。全年齢階級の罹患数を全年齢階級のその年の人口で除した罹患率を粗罹患率という。
- ・**年齢調整罹患率**:比較対象間の人口構成が異なっている場合、粗罹患率による比較では解釈が困難である。例えば、異なる二つの地域の年齢階級別罹患率が全く同じ場合でもがん罹患率が高い高齢層に人口構成が偏っているほど、粗罹患率は大きくなる。そこで、他の地域のがん罹患率と比較する時や、同じ地域でがん罹患率の動向を観察する時には、異なる人口構成を調整した(人口構成の違いを取り除いた)罹患率、つまり年齢調整罹患率を用いて比較を行う。ただし、年齢調整罹患率は、比較対象地域が多い場合には簡便で解釈しやすいが、あくまでも要約値である。詳細な比較を行う場合には、年齢階級別罹患率を観察すべきである。
- ・**上皮内がん**:上皮内腫瘍とも呼ばれ、がん細胞が臓器の表面を覆っている上皮までにとどまっているがんです。がんが上皮細胞に接している基底膜という薄い膜状の構造を破って深いところまで広がっていない状態である。

登録罹患数と精度指標



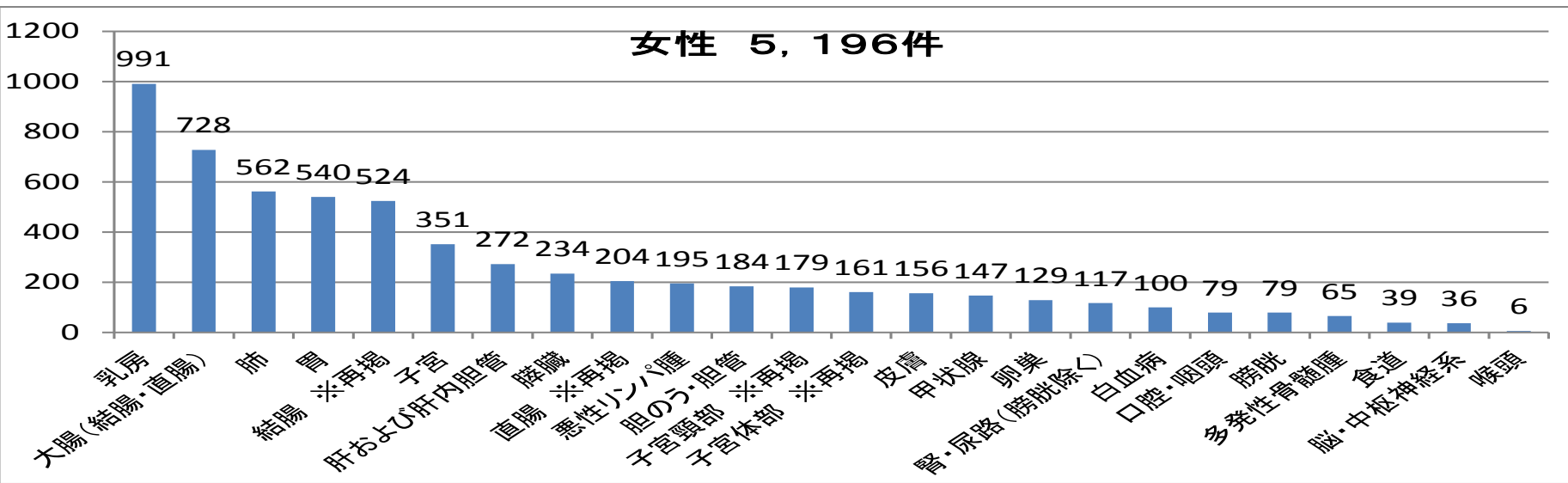
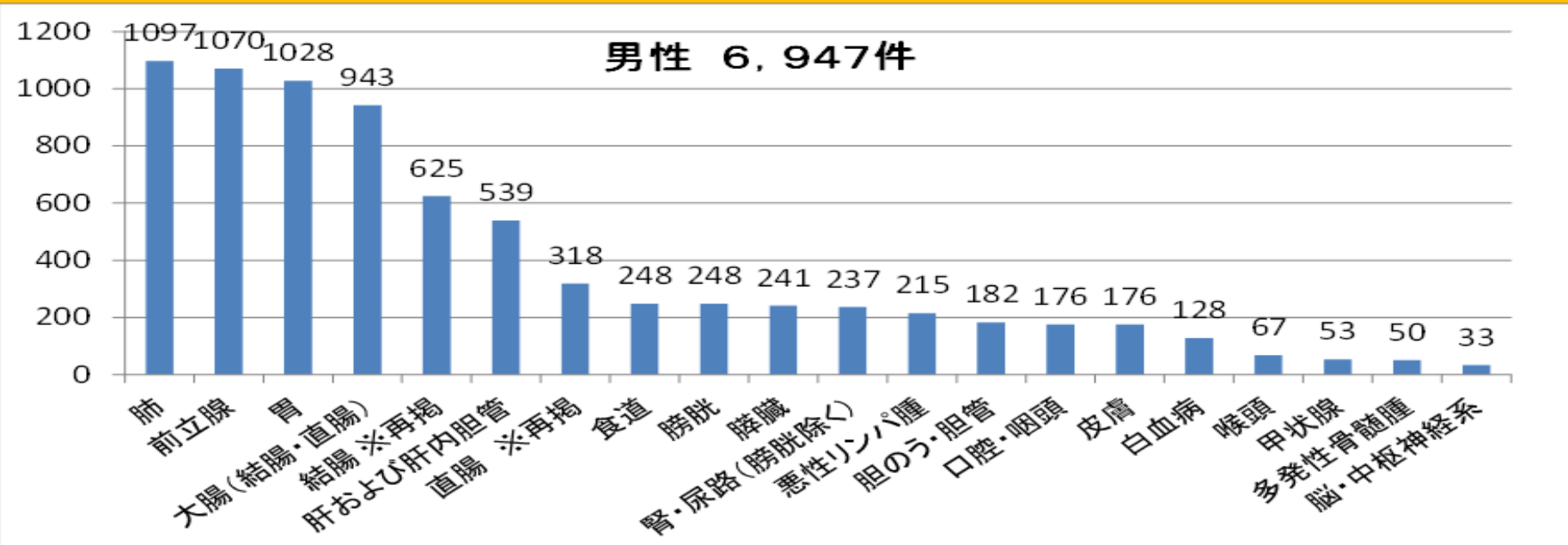
罹患年	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
総数(件)	7,889	8,559	8,285	9,724	10,846	11,058	11,803	12,143
男性(件)	4,355	4,711	4,403	5,391	6,045	6,219	6,668	6,947
女性(件)	3,534	3,848	3,882	4,333	4,801	4,839	5,135	5,196
DCN割合(%)	34.6	34.1	34.6	30.7	23.7	19.3	17.1	12.8
DCO割合(%)	34.6	23.6	24.7	18.6	15.2	13.1	11.1	9.4
IM比	1.7	1.79	1.71	1.99	2.11	2.14	2.26	2.28
MV(%)	57.1	57.9	58.1	71.2	74.4	76.9	78.6	80.9

* 罹患数は、罹患人数ではない。

* 届出漏れもあるため、罹患数の解釈には注意が必要であり、精度指標(DCN, DCO, I/M比)を一緒に示すこととなっている。

1 罹患数(件) 〈男女別／部位別〉

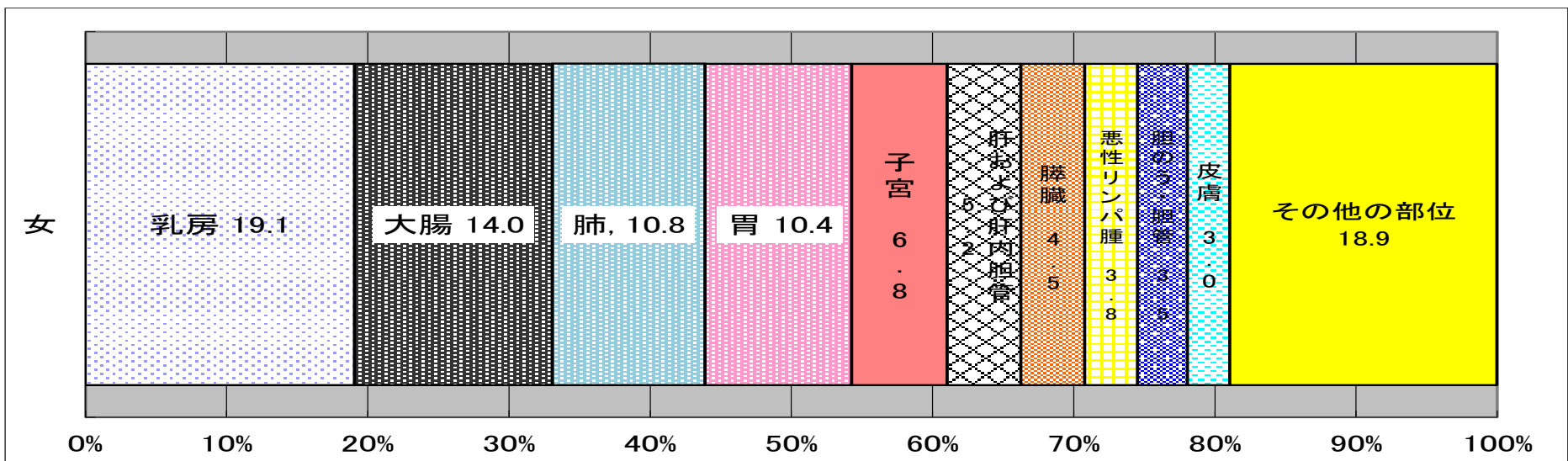
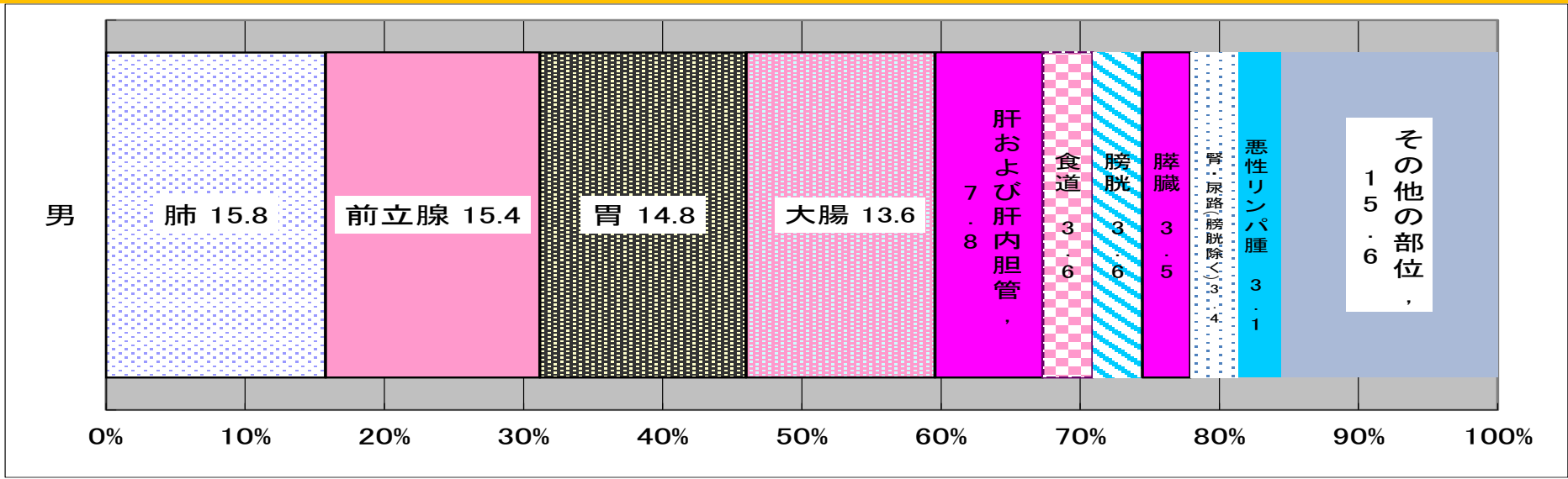
※上皮内がんを除く



2010年(1年間)のがん罹患数は、男性:6,947件 女性5,196件 合計12,143件で、
2009年(男性:6,668件 女性:5,135件 合計11,803件)より増加した。

2 罹患割合(%) 〈男女別／部位別〉

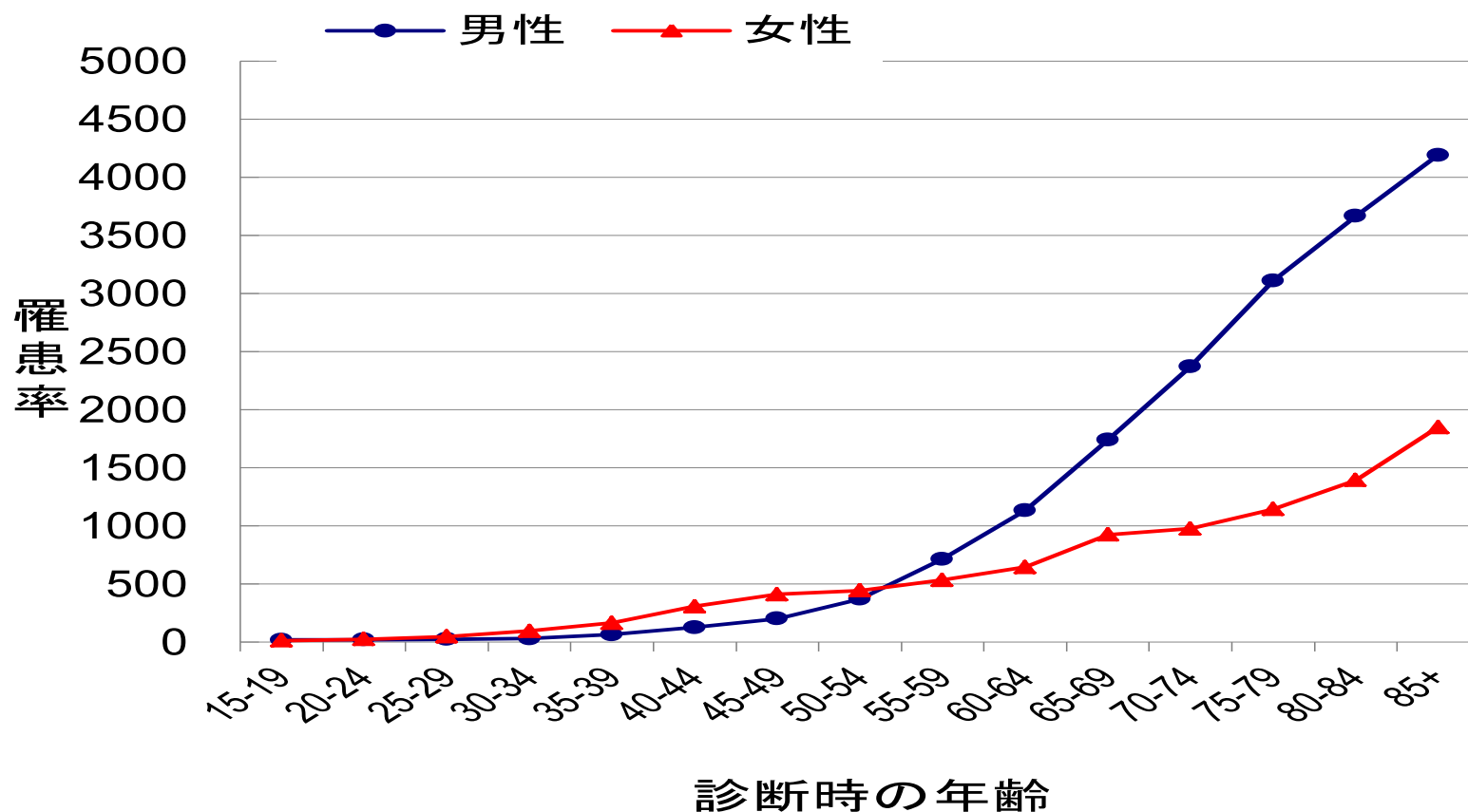
※上皮内がんを除く



罹患割合の順位は、2009年と同様であり、各部位の割合も同程度であった。

- 【男性】 ①肺(15.8%) ②前立腺(15.4%) ③胃(14.8%)
- 【女性】 ①乳房(19.1%) ②大腸(14.0%) ③肺(10.8%)

全部位(上皮内がんを除く)

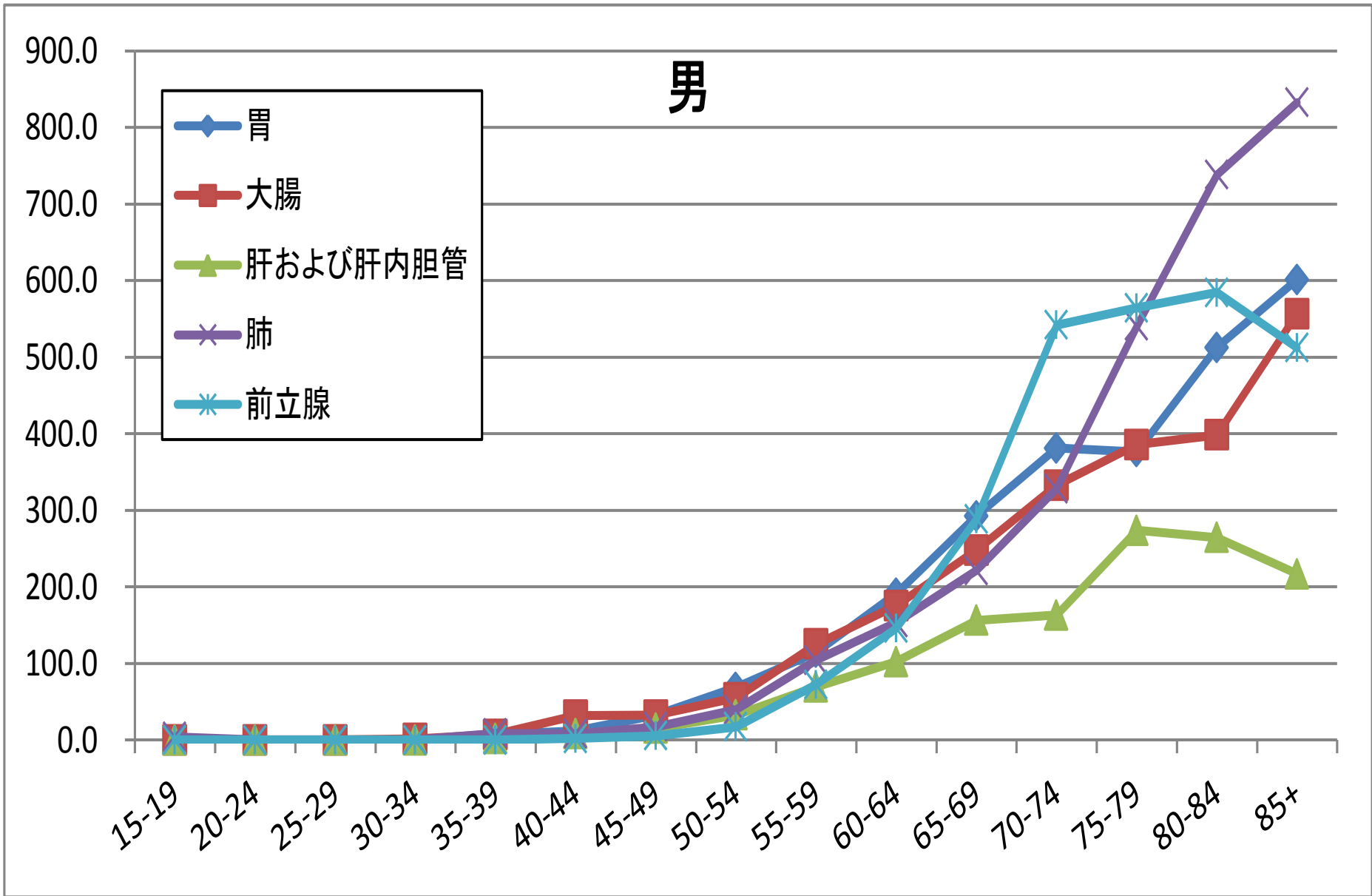


- ・男女とも、50歳代からがんの罹患が増加し、高齢になるほど高くなっている。
- ・罹患率は女性よりも男性の方が高いが、20代後半から50代前半の年齢層では、女性が男性より高くなっており、これは女性の子宮頸がんと乳がんが多いためである。

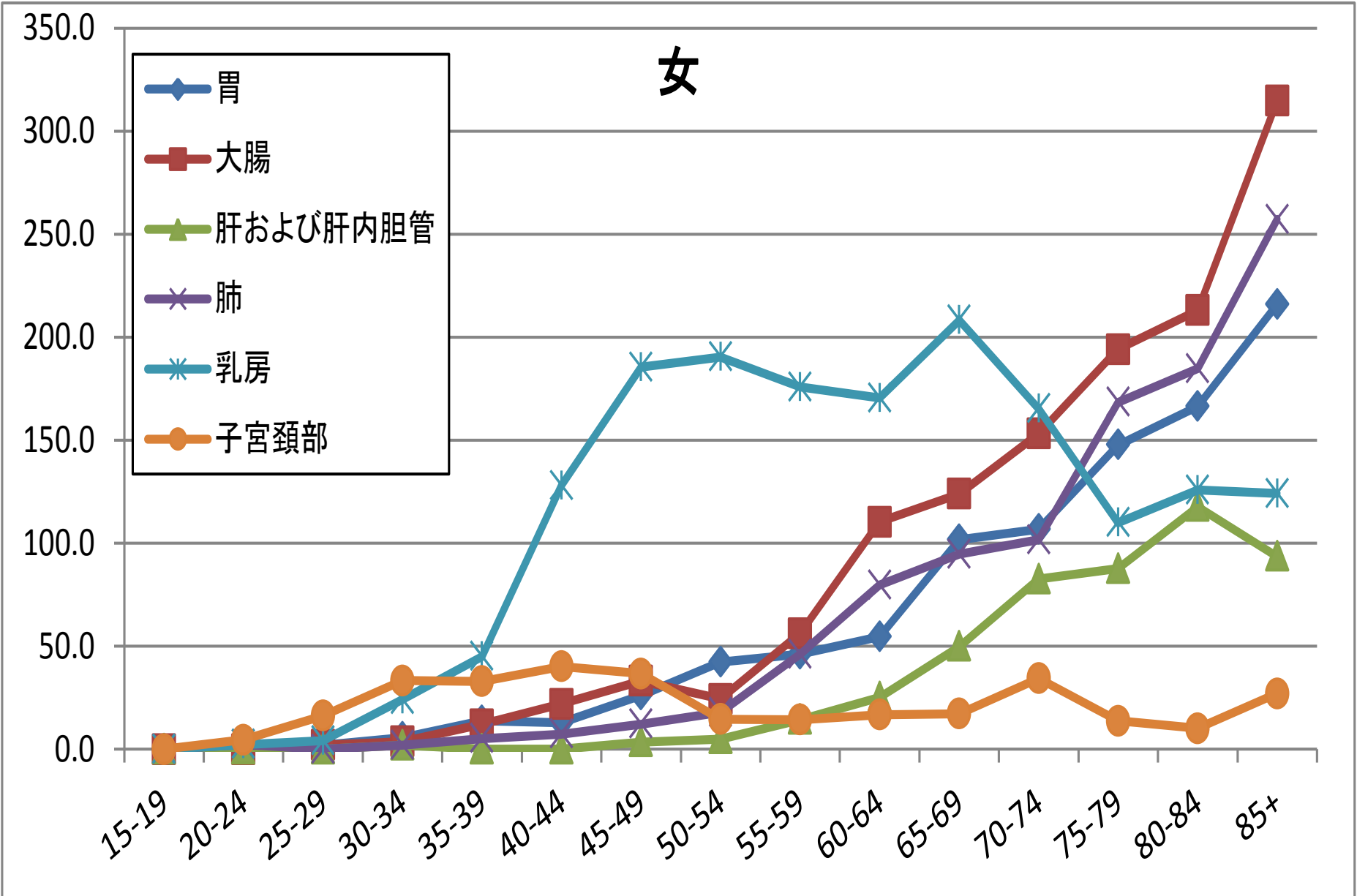
3-2 年齢階級別罹患率(人口10万対)〈男女別〉

※上皮内がんを除く

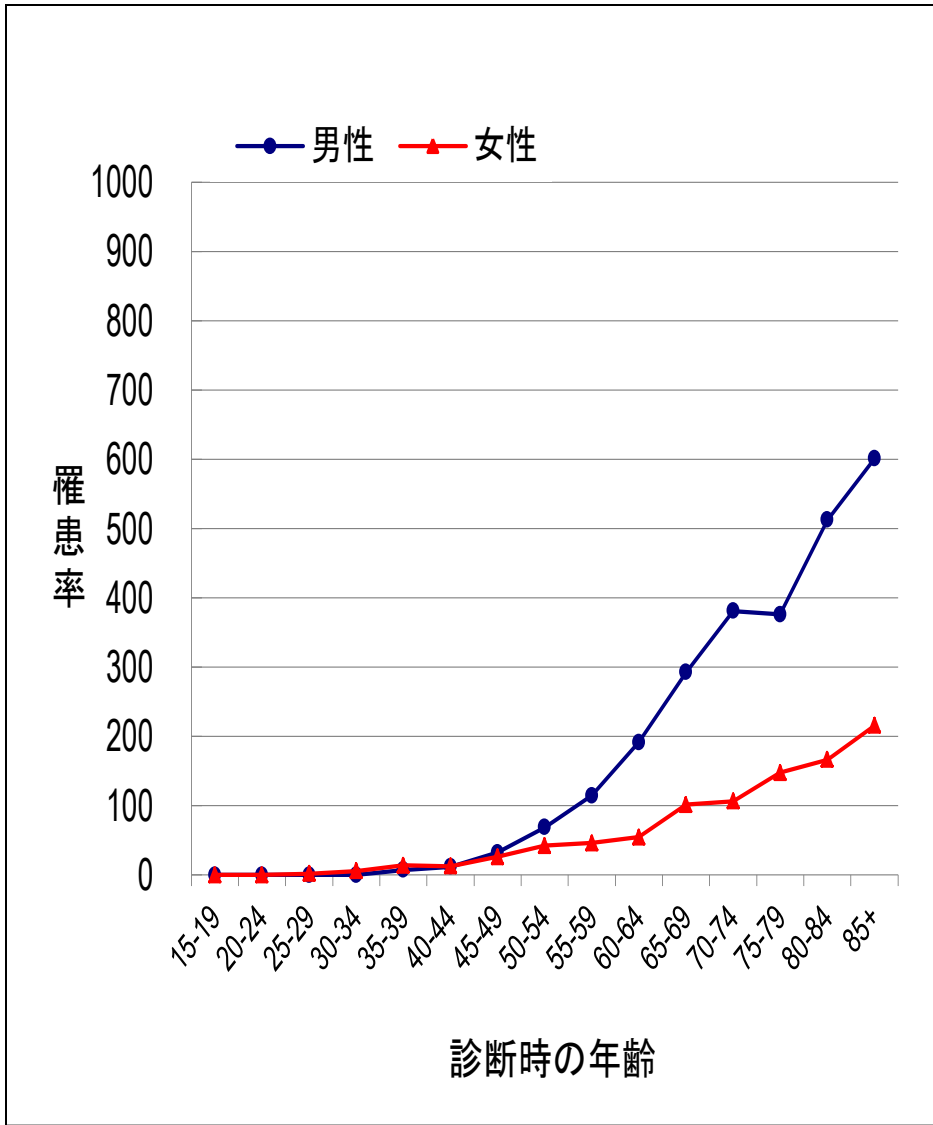
男性(上皮内がんを除く)



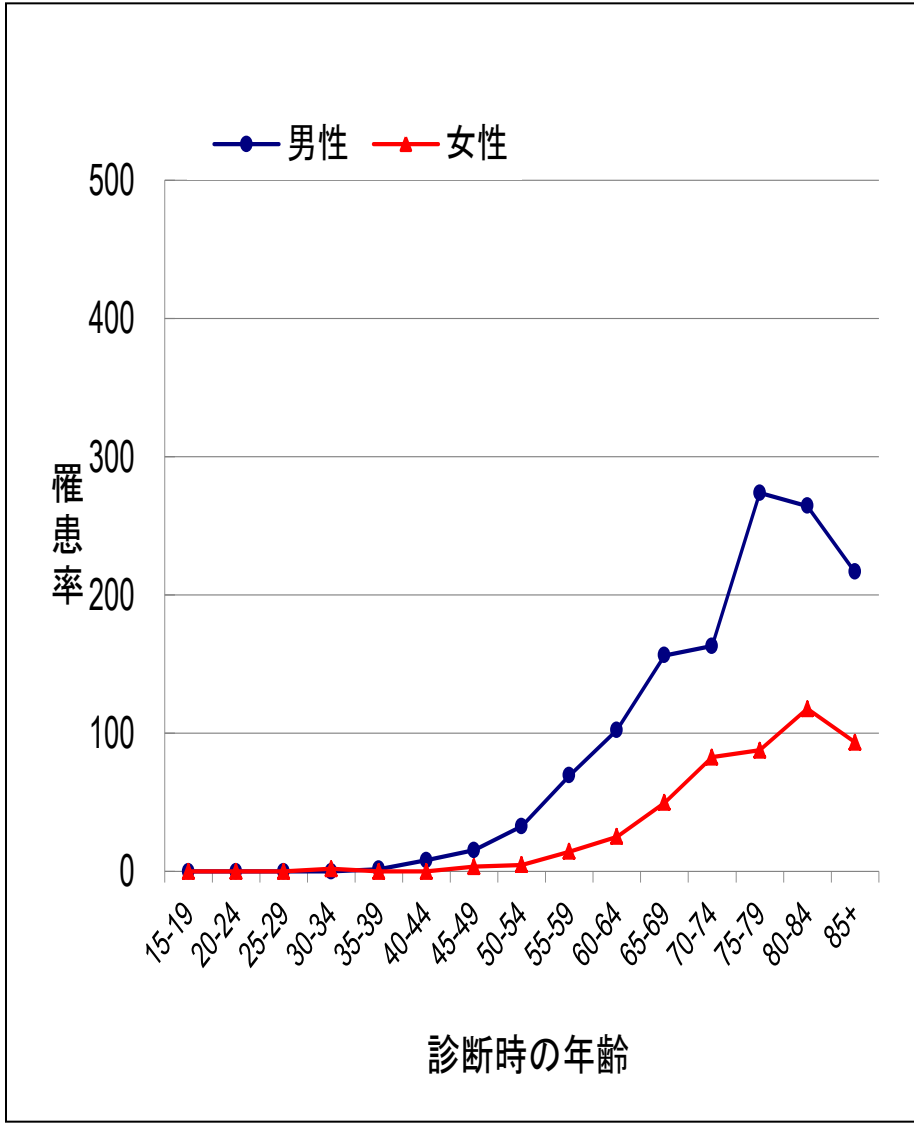
女性(上皮内がんを除く)



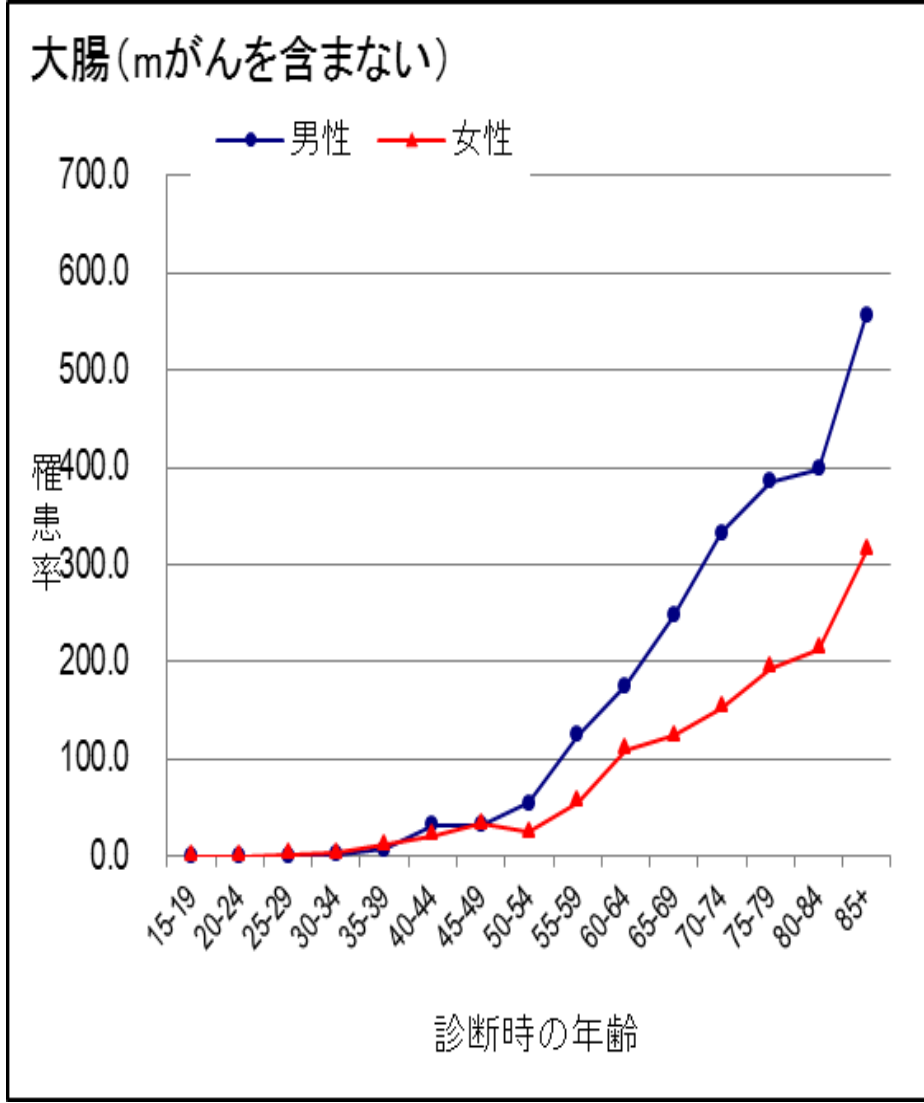
胃がん(上皮内がんを除く)



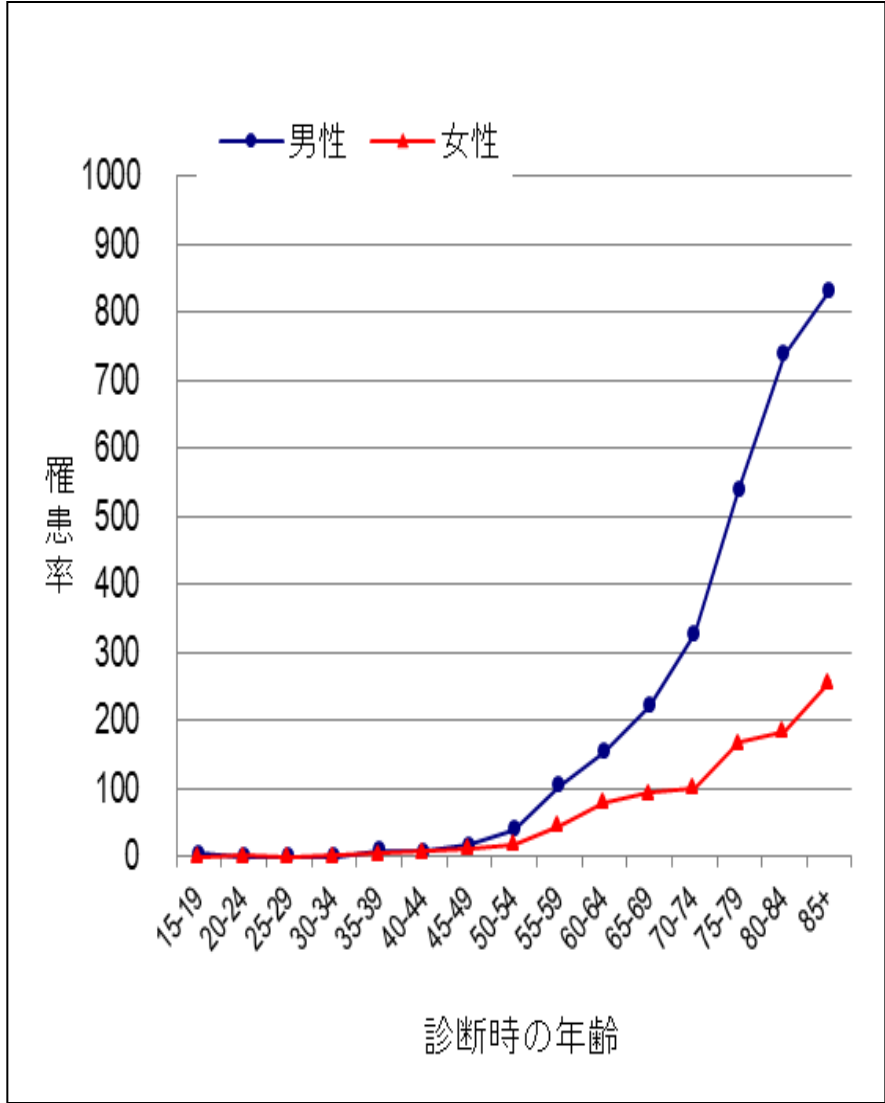
肝がん(上皮内がんを除く)



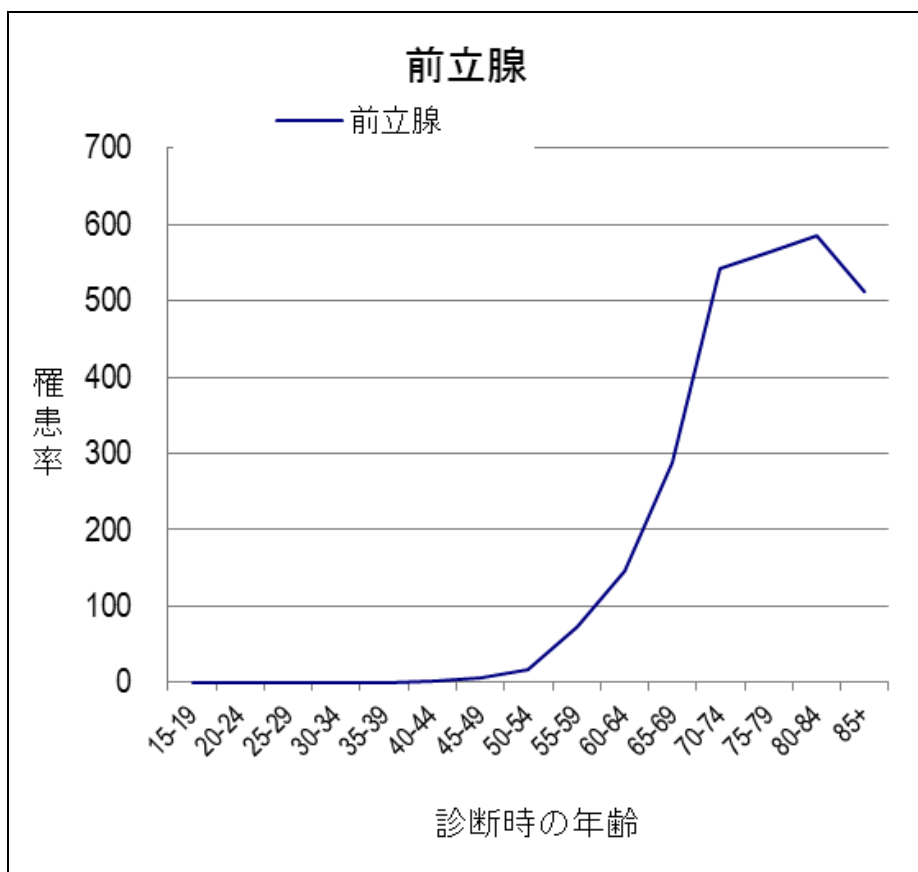
大腸がん(上皮内がんを除く)



肺がん(上皮内がんを除く)

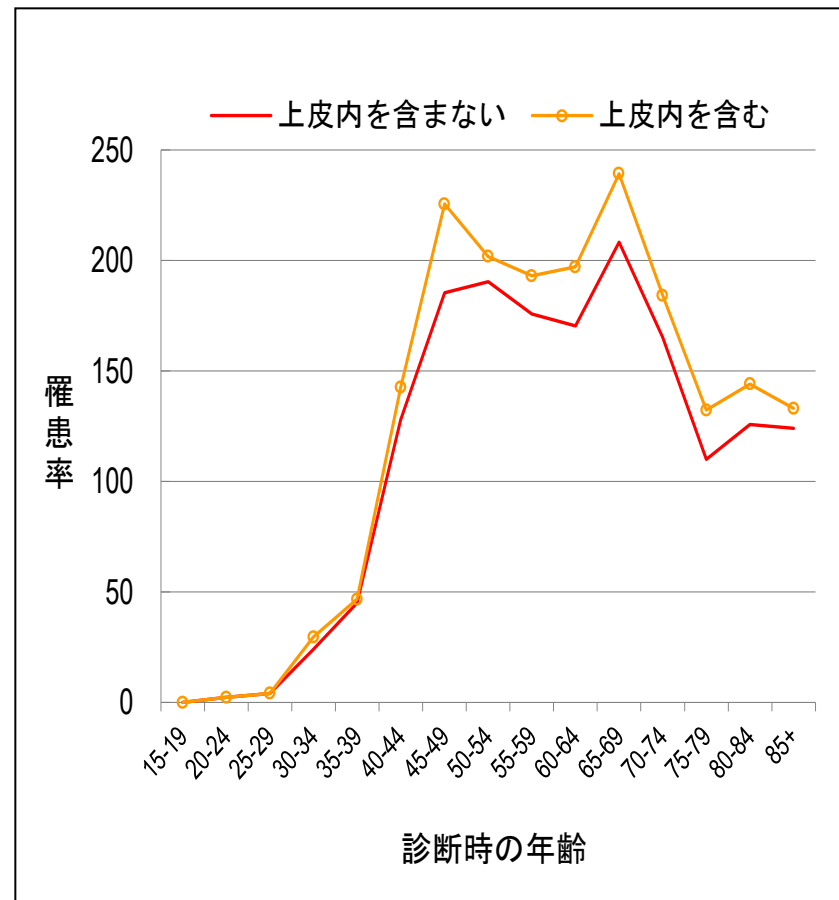


前立腺がん(上皮内がんを除く)



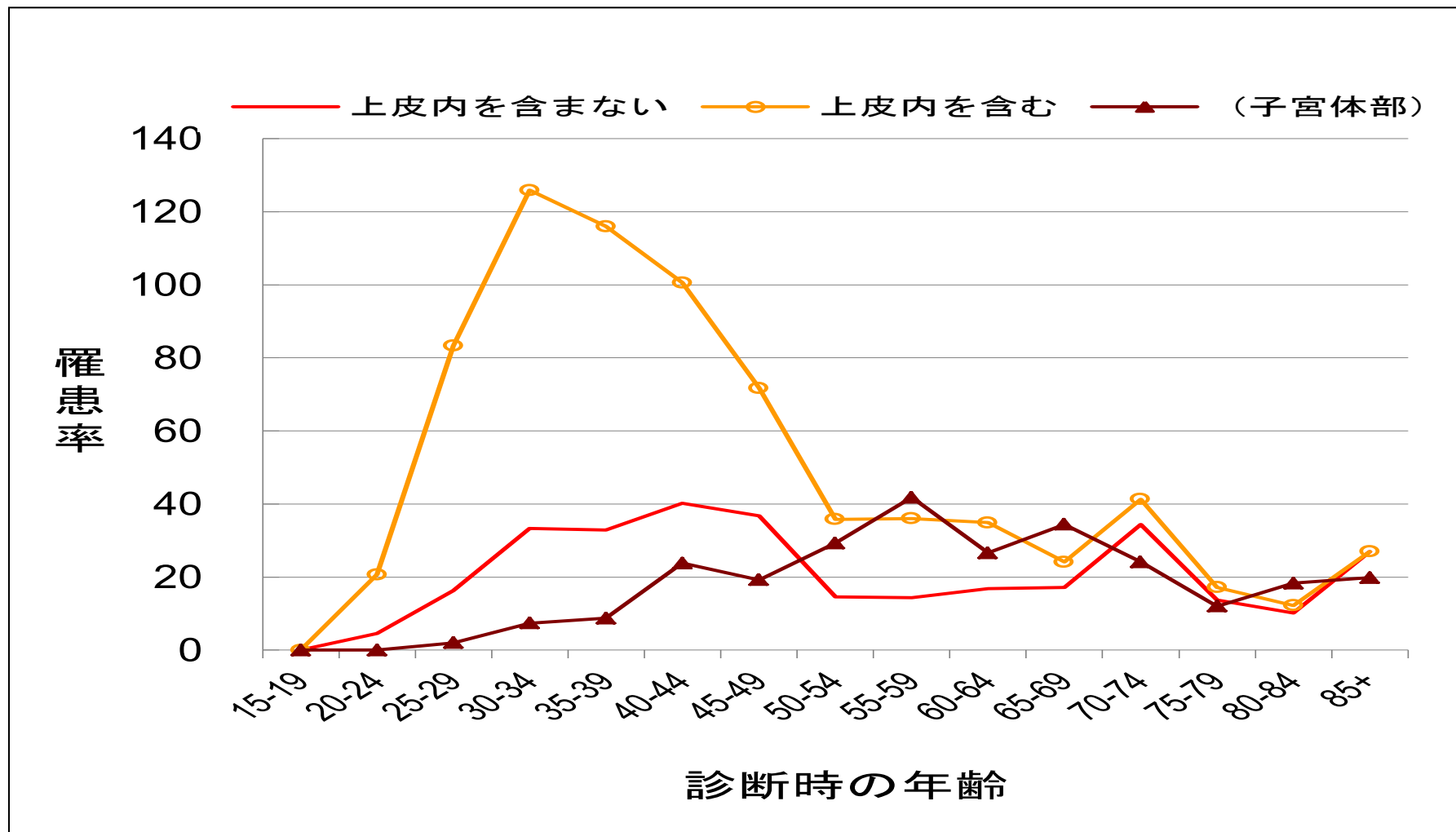
・前立腺がんは、50代後半から上昇し、高齢になるほど高くなっている。

乳がん(女性のみ)



・女性の乳がんは、30代前半から上昇し、40代から60代にピークがある。

子宮(頸部・体部)



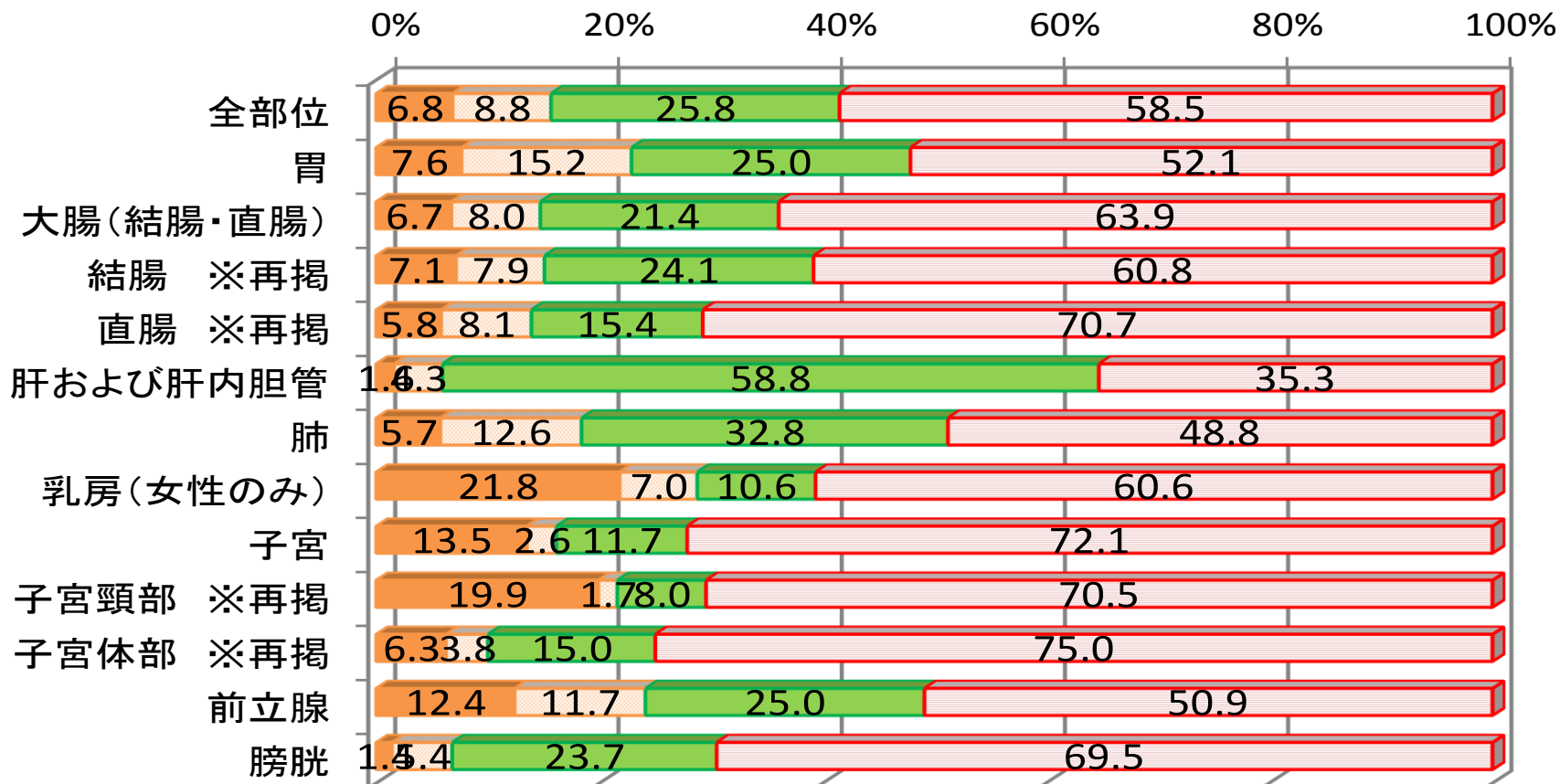
・子宮頸がんは、20代後半から罹患率が上昇し、30代から40代にピークがあるが、上皮内がんを含めた場合、30代をピークとして20代後半から40代で高くなっている。

4-1 発見経緯(%)

※上皮内がんを除く

(上皮内がんを除く)(%)

■ がん検診
 ■ 健診・人間ドック
 ■ 他疾患の経過観察中
 ■ 剖検発見
 ■ その他不明



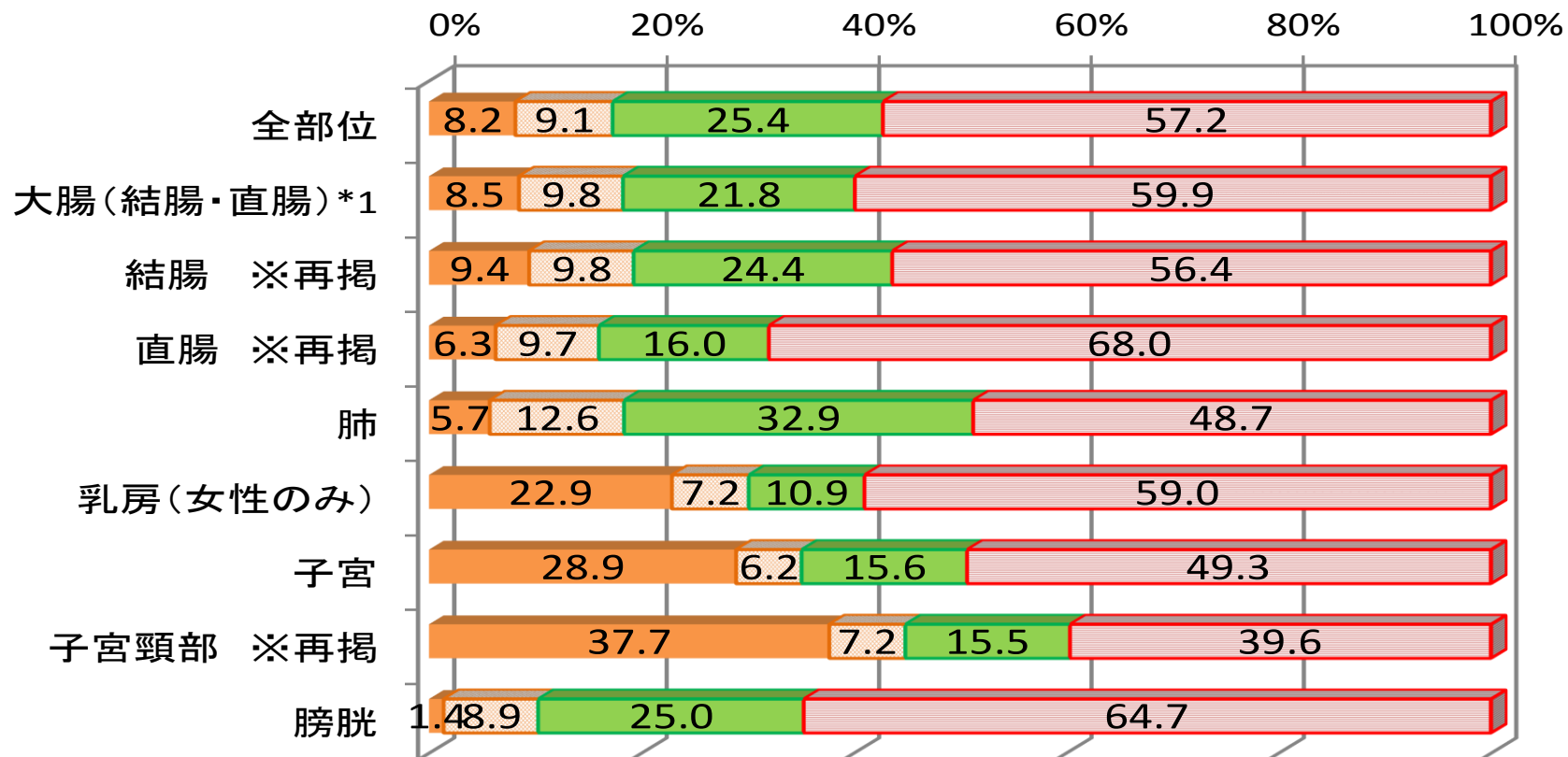
・一般に住民健診が実施されている胃、大腸、肺、乳房、子宮頸部において、がん検診や人間ドックが発見の契機となった割合は、胃22.8%、大腸14.7%、肺18.3%、乳房28.8%、子宮頸部21.6%、前立腺24.1%であった。

4-2 発見経緯(%)

※上皮内がんを含む

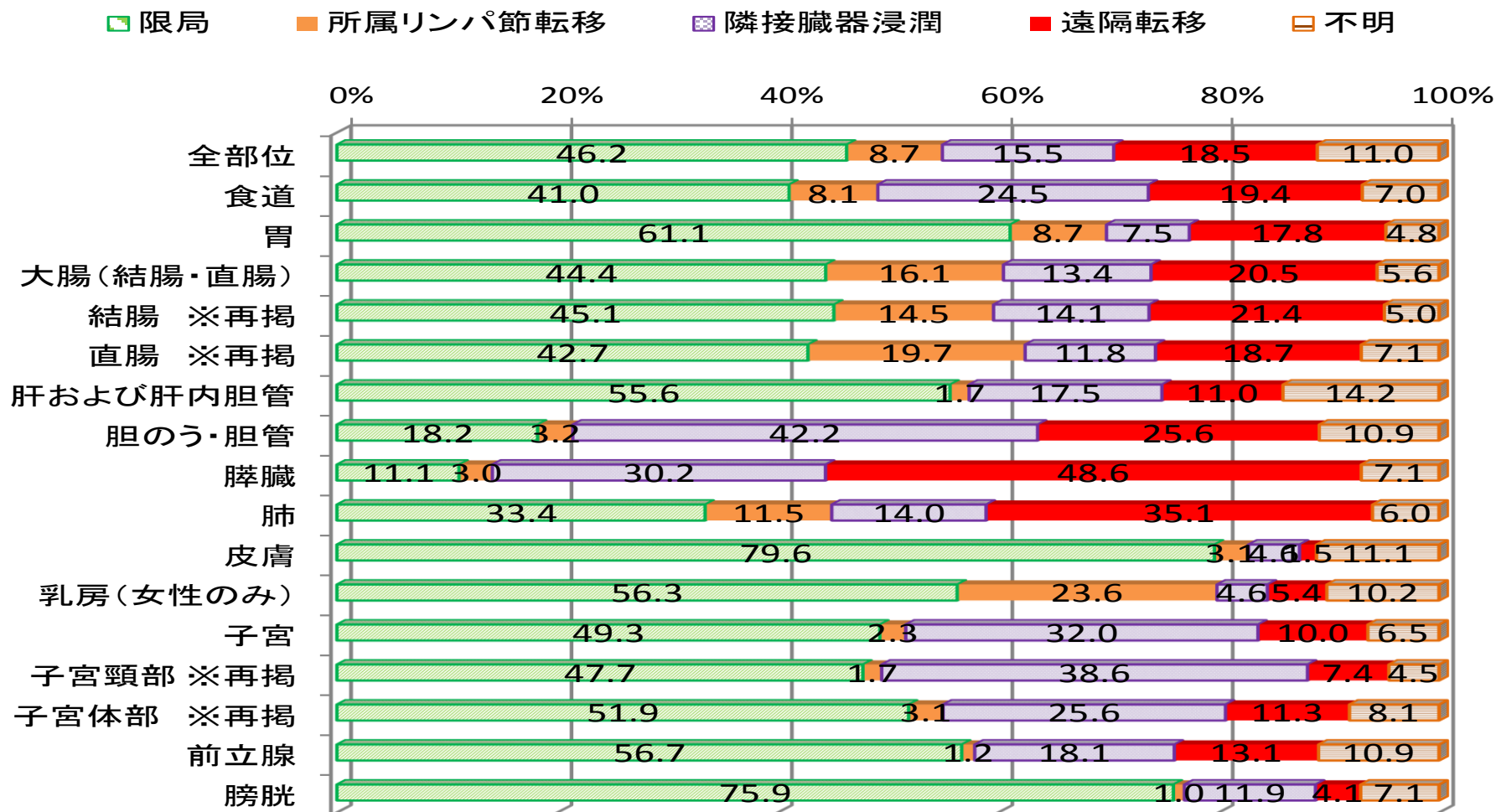
(上皮内がんを含む)(%)

■ がん検診 ■ 健診・人間ドック ■ 他疾患の経過観察中 ■ 剖検発見 ■ その他不明



・上皮内がんを含めた場合の発見経緯は、上皮内がんを除いた場合と比べて、「がん検診」や「人間ドック」が発見経緯となった割合は、大腸で1.24倍、乳房で1.05倍、子宮頸部で2.08倍高くなっている。

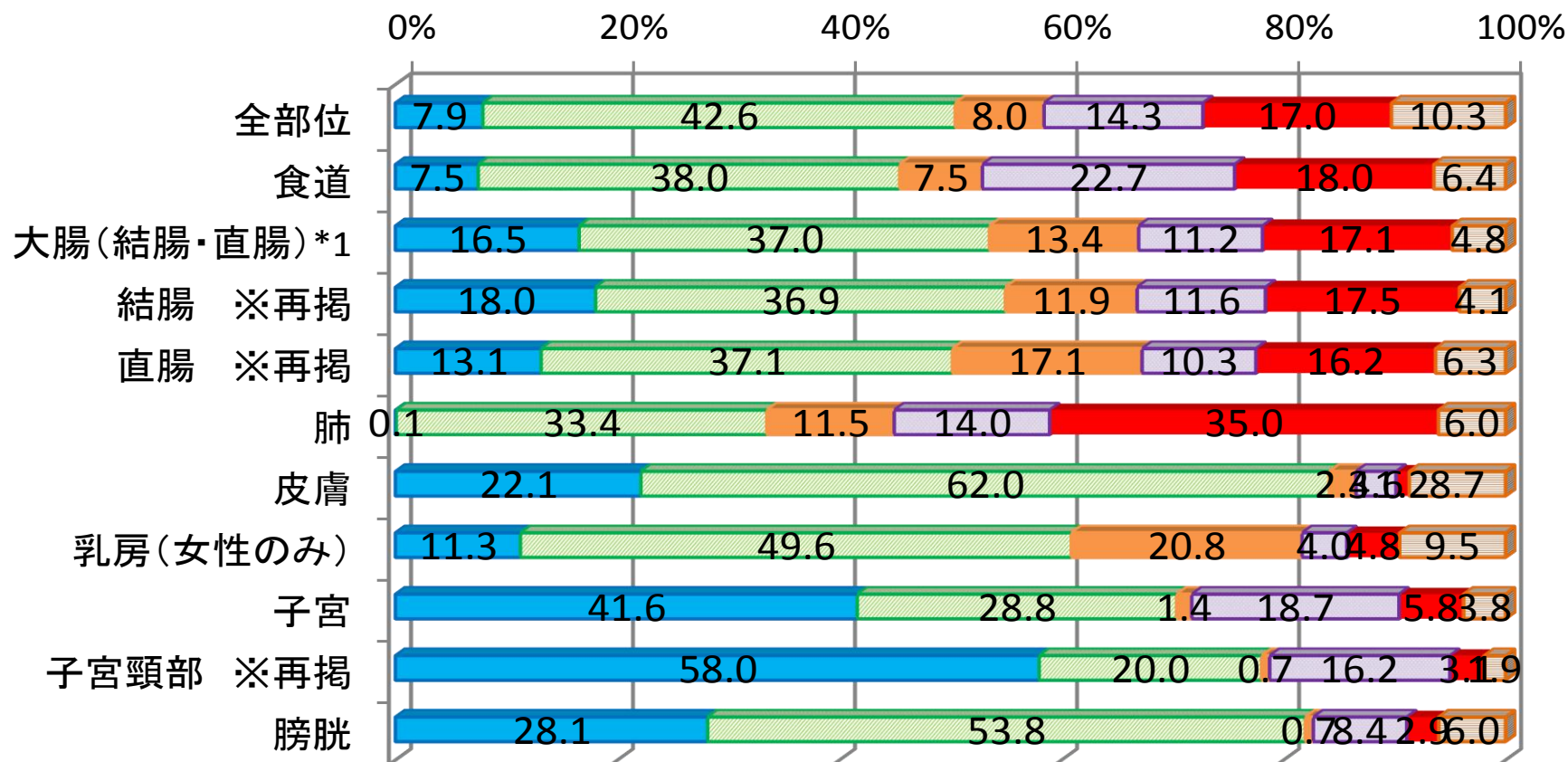
(上皮内がんを除く)(%)



・がんの部位によって、発見時のがんの進行度が異なることが分かる。

(上皮内がんを含む)(%)

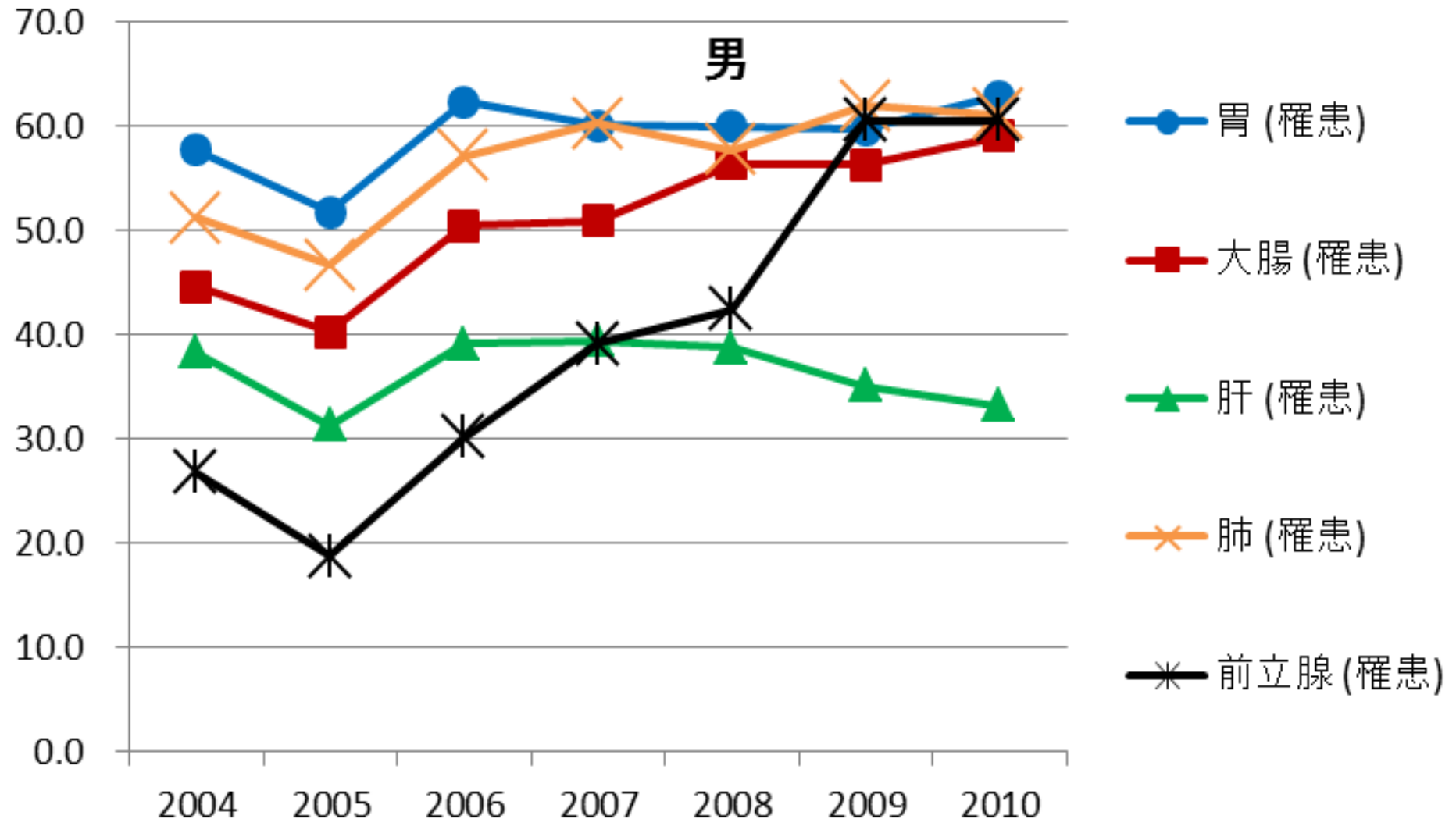
■ 上皮内がん □ 限局 ■ 所属リンパ節転移 ■ 隣接臓器浸潤 ■ 遠隔転移 □ 不明



- ・一般的にがん検診が実施されている部位においては、発見時の進行度が「上皮内がん」「限局」の割合が高い。
- ・肺がんは、発見時に遠隔転移があった割合が高い。

6-1 年齢調整罹患率年次推移(人口10万対)

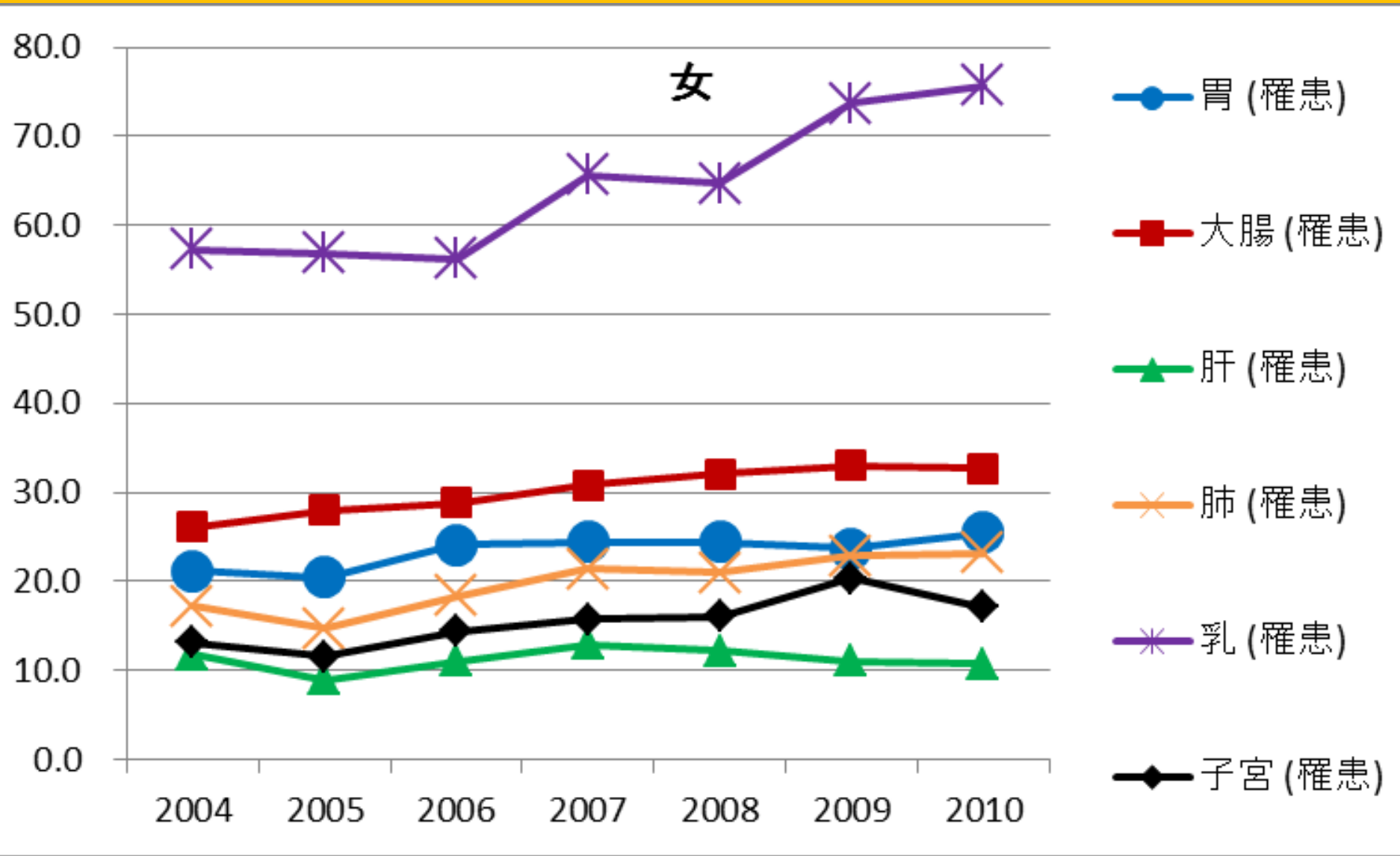
※上皮内がんを除く



・肝は、2007年まで増加後、減少傾向にあるが、大腸及び肺で緩やかな増加傾向がみられる。また、前立腺で著しい増加がみられる。

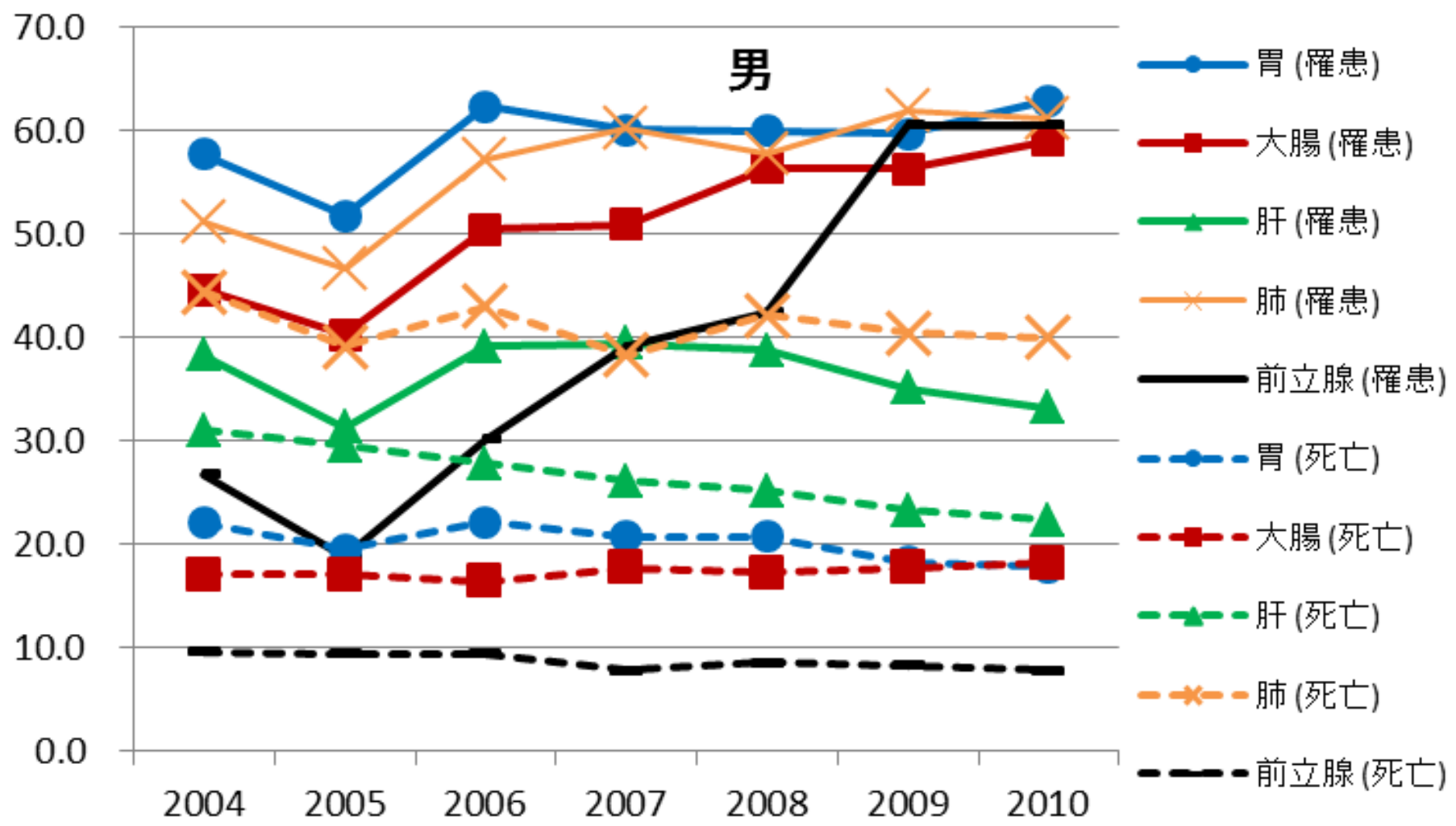
6-2 年齢調整罹患率年次推移(人口10万対)

※上皮内がんを除く



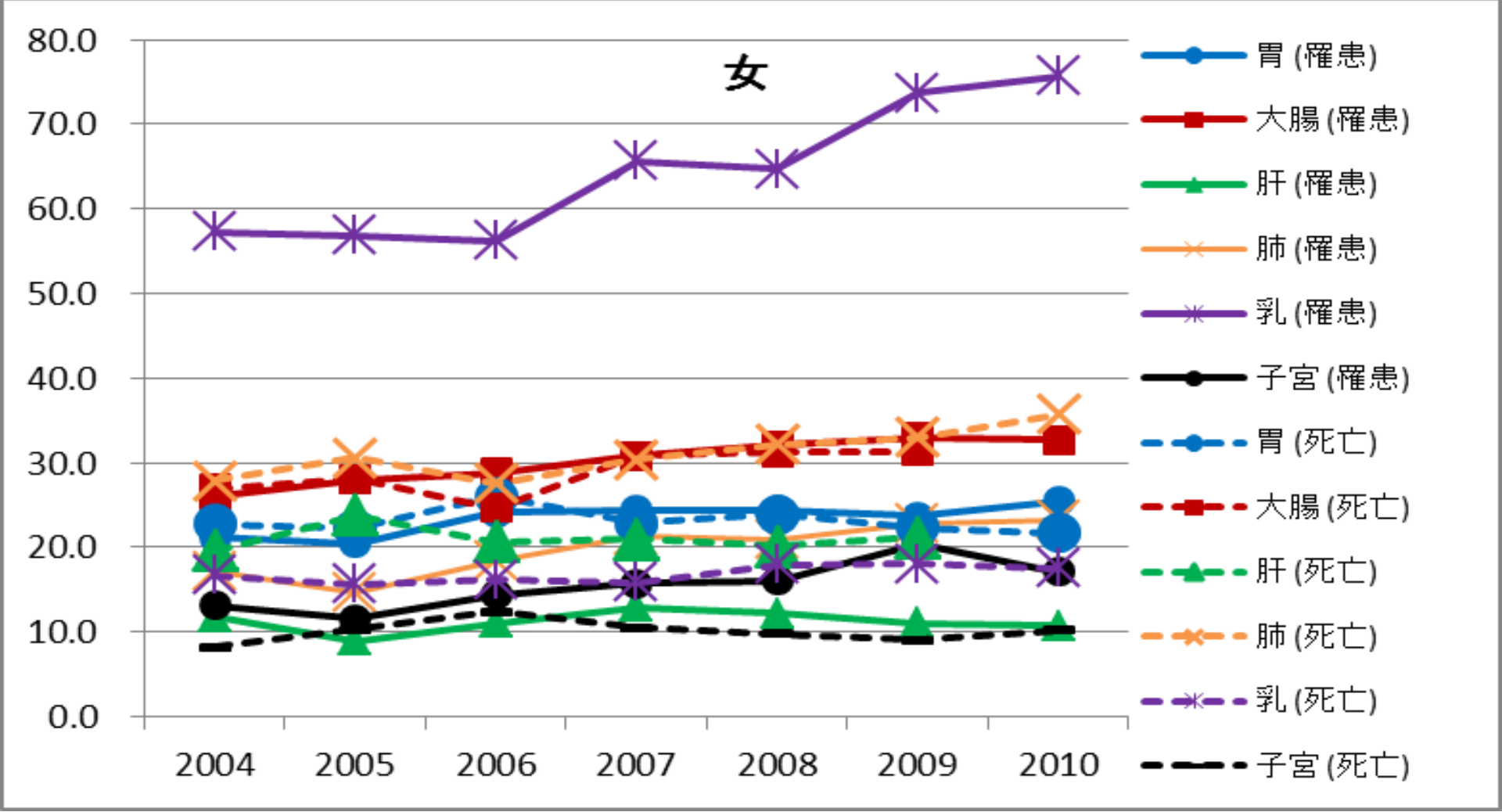
・乳房の罹患率が高く、増加傾向にある。

7-1 罹患と死亡の年次推移(年齢調整罹患率・死亡率(人口10万対))



・男性の前立腺で、罹患率が上昇しているものの死亡率は高くない。

7-2 罹患と死亡の年次推移(年齢調整罹患率・死亡率(人口10万対))



・女性の乳房で、罹患率が上昇しているものの死亡率は高くない。